

第4期高幡地域アクションプランの
進捗状況確認資料

高 幡 地 域 本 部

令和4年7月8日（金）

高幡地域アクションプランの進捗状況確認資料 (令和3年度の実施状況と令和4年度の展開)

R4.7.8

高幡地域本部

1 地域アクションプランの令和3年度の実施状況と令和4年度の展開（総括）

(1) 総評

高幡地域においては、全42項目の地域アクションプランについて、事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めてきた。

長引くコロナ禍などにより、観光分野をはじめ幅広い分野で大きな影響を受けているが、社会・経済構造の変化に対応する新たな取り組みなど、地域経済の回復に向けた動きが見られる。

農業分野では、須崎市、中土佐町、津野町で栽培するミョウガの生産拡大を核として、循環型養液システム、ヤシガラ培地の活用システム、優良種茎の安定供給体制を構築するとともに、認知度の向上と、ミョウガの一層の消費拡大に取り組んでいる。

また、畜産関係では、四万十町において、四万十ポークブランド推進協議会を中心に、安心・安全な豚肉を安定的に供給できる体制を再構築し、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す取り組みを進めている。

梶原町では、梶原町雉生産組合から集落活動センター四万川が事業承継を受けて、令和4年度に「産業振興推進総合支援事業費補助金」を活用した加工場の整備を行い、生産から流通販売まで一貫した取り組みを進めることとしている。

林業分野では、管内の大型製材工場の操業開始や価格の急騰などにより、木材需要量の増加や林地残材等を活用した木質バイオマスの利用拡大が進んでいる。また、四万十ヒノキの集成材商品の販売強化や、組み立て式サウナなど新商品の開発に取り組んでいる。

水産業分野では、業務需要が大きく減少するなど厳しい状況にあるが、須崎市における養殖マダイの生産者グループと民間事業者、漁協が連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷事業者の販売戦略に左右されにくい販売力の構築に取り組んでいる。

商工業分野では、中土佐町において、商工会や観光協会、事業者等が連携し、お互いの強みを生かした中土佐町全体のブランド力の強化や地産外商に取り組むとともに、道の駅なかとさでは苺ビールなど地域資源を活用した商品開発や魅力的な店づくりなどにより、地域の拠点施設としての充実を図っていく。

観光分野においては、「フォレストアドベンチャー高知」の整備や「星ふるヴィレッジTENGU」「遊山四万十せいらの里」のリニューアルなど、四国カルストエリア一帯のブランド化や、滞在型の観光拠点「ロゴスパークシーサイド高知須崎」を中心に、海の体験観光を楽しめる浦ノ内マリパーク構想による交流人口の拡大や周遊を促す取り組みが進んでいる。

こうした魅力的な観光資源を磨き上げ、地域の観光振興と経済の活性化を目指すため、6月に設置された広域観光組織「一般社団法人奥四万十高知」を中心に、5市町の連携強化と交流人口の拡大に取り組んでいく。

本年度は、地域アクションプラン数は2件減の40項目。引き続き実行支援チームを編成し、市町や関係機関と連携し、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいく。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】					【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
農業	1 くらしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト (須崎市、中土佐町、津野町) 【実施主体】 ◎・JA土佐くらしお ・須崎市 ・中土佐町 ・津野町 ・(株)E-システム	新規雇用者数(累計)(R元)	—	0名	1名	4名	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備 ・ヤシガラ対策協議会設立総会 ・ヤシガラ活用スキームの構築、取組状況の確認 ・ヤシガラ培地活用に係る工場建設 2 ミョウガの販売促進 ・県外消費宣伝活動 ・地域内消費拡大活動 ・とさつ子広場からの情報発信 3 ミョウガの収量・品質の向上 ・ミョウガの収量・品質向上に係る試験等の実施 ・循環型養液システムの導入に向けた推進活動 ・培地吹き飛ばし事業化の検討	1 「ミョウガの生産拡大」、2「ミョウガの販売促進」、3「ミョウガの収量・品質の向上」共通の取組 ・JA土佐くらしお管内連絡協議会で一次・二次・三次WGの年間計画について共有(5/24) 1 ミョウガの生産拡大 ・国事業・県事業を活用した整備(ハウス91a・環境制御装置17戸) ・再生ヤシガラ工場(プラント倉庫)完成(10/30) 2 ミョウガの販売促進 ・JA高知県とともに販促用ミョウガパンフレット作成、「高知のミョウガを知って5000円をGETしよう！」キャンペーン実施(応募14万4,627件)、CPシールのQRコードでミョウガレシピ紹介(6/1~8/31)アクセス:29,317件 ・テレビ番組でのミョウガPR(5/21テレビ東京:ミョウガ和えめん、9/29テレビ高知:やみつきミョウガごはん) ・ミョウガの切り下を利用した加工用向け規格を試験販売(7/10~) ・とさつ子広場でミョウガ料理を検討(ミョウガちらし寿司、巻き寿司)(7月) ・JA広報誌での新ミョウガメニュー紹介(ミョウガまぜ寿司8月、ミョウガサンド9月) ・観光列車の乗客への消費宣伝(8月、JR須崎駅でのミョウガプレゼント(120パック)、レシピ紹介) ・栄養士向けオンライン調理実演会開催(9/14【東京青果株式会社×新宿区・大田区】 ・タイ王国輸出対応に向けた出荷場の選果こん包施設認証取得(12/9) ・地元小学校出前授業の開催(11/9)	新規雇用者数(累計):1名 ・R3目標達成率:100% ・対前年比:—	A	(成果) 再生ヤシガラ工場の稼働に併せ、関連する企業等で雇用は順調に増加。またミョウガの生産拡大に伴い順調に雇用者数は増加している。 (課題) 特になし	2名	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備 ・ヤシガラ活用スキーム取組状況の確認 2 ミョウガの販売促進 ・県外消費宣伝活動 ・地域内消費拡大活動 ・とさつ子広場からの情報発信 3 ミョウガの収量・品質の向上 ・ミョウガの収量・品質向上に係る試験等の実施 ・循環型養液システムの導入に向けた推進活動 ・優良種根茎の確保 ・培地吹き飛ばし事業化の検討
			0品	0品	2品	4品	2 ミョウガの収量・品質の向上 ・JA高知県とともに販促用ミョウガパンフレット作成、「高知のミョウガを知って5000円をGETしよう！」キャンペーン実施(応募14万4,627件)、CPシールのQRコードでミョウガレシピ紹介(6/1~8/31)アクセス:29,317件 ・テレビ番組でのミョウガPR(5/21テレビ東京:ミョウガ和えめん、9/29テレビ高知:やみつきミョウガごはん) ・ミョウガの切り下を利用した加工用向け規格を試験販売(7/10~) ・とさつ子広場でミョウガ料理を検討(ミョウガちらし寿司、巻き寿司)(7月) ・JA広報誌での新ミョウガメニュー紹介(ミョウガまぜ寿司8月、ミョウガサンド9月) ・観光列車の乗客への消費宣伝(8月、JR須崎駅でのミョウガプレゼント(120パック)、レシピ紹介) ・栄養士向けオンライン調理実演会開催(9/14【東京青果株式会社×新宿区・大田区】 ・タイ王国輸出対応に向けた出荷場の選果こん包施設認証取得(12/9) ・地元小学校出前授業の開催(11/9)	ミョウガを使ったメニューの定番化(累計) ・6品目 ・R3目標達成率:300% ・対前年比:—	S	(成果) メニューの考案はJA女性部の協力もあり順調に進んでいる。 (課題) コロナ禍もあり、消費宣伝活動等が制限されている。	2品	3 ミョウガの収量・品質の向上 ・JA高知県とともに販促用ミョウガパンフレット作成、「高知のミョウガを知って5000円をGETしよう！」キャンペーン実施(応募14万4,627件)、CPシールのQRコードでミョウガレシピ紹介(6/1~8/31)アクセス:29,317件 ・テレビ番組でのミョウガPR(5/21テレビ東京:ミョウガ和えめん、9/29テレビ高知:やみつきミョウガごはん) ・ミョウガの切り下を利用した加工用向け規格を試験販売(7/10~) ・とさつ子広場でミョウガ料理を検討(ミョウガちらし寿司、巻き寿司)(7月) ・JA広報誌での新ミョウガメニュー紹介(ミョウガまぜ寿司8月、ミョウガサンド9月) ・観光列車の乗客への消費宣伝(8月、JR須崎駅でのミョウガプレゼント(120パック)、レシピ紹介) ・栄養士向けオンライン調理実演会開催(9/14【東京青果株式会社×新宿区・大田区】 ・タイ王国輸出対応に向けた出荷場の選果こん包施設認証取得(12/9) ・地元小学校出前授業の開催(11/9)	
			—	45a	55a	200a(累計)	3 ミョウガの収量・品質の向上 ・講習会開催による栽培指導(計14回、延べ400人) ・ミョウガ炭酸ガス施用効果の試験圃調査(6回、8人) ・腐敗対策のための水質調査、試験の実施(6、7、10月39カ所、目ならし会9回、201人) ・循環型養液システムの推進(11戸導入意向) ・良質種茎の選択、育成、評価(試験圃、成分分析)	ミョウガ生産拡大面積(R3):91a ・R3目標達成率:165% ・対前年比:202%	S	(成果) 事業を活用し、順調に生産拡大が行われている。 (課題) 特になし	50a	3 ミョウガの収量・品質の向上 ・講習会開催による栽培指導(計14回、延べ400人) ・ミョウガ炭酸ガス施用効果の試験圃調査(6回、8人) ・腐敗対策のための水質調査、試験の実施(6、7、10月39カ所、目ならし会9回、201人) ・循環型養液システムの推進(11戸導入意向) ・良質種茎の選択、育成、評価(試験圃、成分分析)	
			—	3,614t	3,620t	3,680t	3,800t	ミョウガ出荷量※園芸年度9~8月 3,614t(R元)	ミョウガ出荷量:3,528t ※園芸年度9~8月 ・R3目標達成率:96% ・対前年比:97%	B	(成果) 天候の影響(5月からの長梅雨、8月の曇雨天)により若干目標出荷量を下回ったが、販売額は過去最高額。 (課題) 特になし	3,740t	ミョウガの出荷量※園芸年度9~8月 3,614t(R元)

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
農業	3 梶原産キジ肉の加工・販売の拡大 (梶原町) 【実施主体】 ○・梶原町雄生産組合 ※R4から(株)四万川に変更 ・梶原町	販売額 1,458万円 (H30)	1,659万 円	1,429万 円	1,600万 円	2,200万 円	1 品質の向上と出荷体制の強化 ・熟成肉の製造 ・生産の維持 ・組織強化に向けての検討会実施 ・担い手の募集 2 販路開拓 ・県内及び県外に向けた営業力の強化 販売促進用グッズの磨き上げ、県内外事業者等へのガラ等の業務用商品ニーズの情報収集 ・SNSを活用した個人客の獲得 HPやFacebook等による解体や飼育状況等の情報発信 3 キジ肉消費向上 ・町内飲食店への提案 ・県産品商談会やイベントへの出展	1 品質の向上と出荷体制の強化 ・熟成肉の販売 (R3) : 295,167円 2 販路開拓 ・梶原町内の飲食店が1店舗増加 ・特産品オンラインショップ「雲の上ストア」でのキジ肉セット販売強化 ・集落活動センターゆすはら西の推進するゆすはらジビエと連携した販促活動を実施 ・産業振興アドバイザー(課題解決型)を活用し、販売戦略・事業計画策定を支援:(R3.7~11月) 3 キジ肉消費向上 ・「梶原フェア」でのキジ肉販売 ・「土佐のきじ祭り」(3/20)での「本川手箱キジ生産企業組合」と連携したキジ肉販売	販売額 (R3) : 1248万円 ・R3目標達成率: 78% ・対前年比: 87%	C	(成果) ・組織体制の見直し ⇒梶原町雄生産組合から集落活動センター四万川への事業承継による加工・販売体制の強化 ・認知度向上 ⇒「土佐のきじ祭り(第2回)」を開催(R4.3月) (課題) ・衛生管理の高度化(県版HACCP認証取得)への取り組み (今後の方向性) 産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新たな施設(加工場)の整備:(R4予定)	1613万円	1 品質の向上と出荷体制の強化 熟成肉の製造 ・生産の維持 ・孵化率の向上 ・加工施設整備の検討 ・HACCP研修の受講 2 販路開拓 ・高知県産品商談会の出展 ・新商品の開発検討 ・商品パッケージ・リーフレットのリニューアルの検討 ・HPのリニューアルについての検討 ・新商品開発の検討・販売開始 ・営業人材の雇用検討 ・新商品の検討 ・新商品の販売開始 ・業務筋への営業強化 3 キジ肉の消費向上 ・情報発信のスキルアップ ・HPやSNSでの情報発信 ・商品パッケージ・リーフレットを活用した営業強化
農業	4 梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化 (梶原町) 【実施主体】 ○・(一社)津野山畜産公社 ・梶原町	販売額 1.3億円 (H30)	0.8億円	0.85億円	1.6億円	1.9億円	1 組織体制の強化 ・インターンシップの受入 ・複合経営モデルの提示による移住者の確保促進 2 梶原町産牛肉の認知度向上 ・学校給食への提供、産業の教育(食育) ・道の駅・雲の上のホテルでのメニュー提供 ・ふるさと納税返礼品としての提供	1 組織体制の強化 ・4月から2名増(3名雇用うち1名は退職補充) ・中山間複合経営拠点施設となり、他事業(土づくりセンター管理業務等)にも着手 ・インターンシップ事業(新規就農者が就業体験を行う研修制度)実施(5月~10月) 2 梶原町産牛肉の認知度向上 ・学校給食における和牛中心のメニュー提供(12月1回)	販売額 (R3) : 14,771万円 ・R3目標達成率: 92% ・対前年比: 173% ※昨年度に比べて販売単価が高値のため	B	(成果) 販売金額は伸び、肉質(上物率)も98%(黒牛)となっている。 (課題) 輸送コンテナ不足による乾草の高騰と入荷不足。輸入濃厚飼料の不足への懸念。 (今後の方向性) カルスト牧場で使用していない牧区の再生と国内の耕種農家との連携によるWCSなどの活用など。	1.3億円	1 組織体制の強化 ・インターンシップの受入れ ・複合経営モデルの提示による移住者の確保促進 ・経営管理 2 梶原町産牛肉の認知度向上 ・学校給食への提供、産業の教育(食育) ・ふるさと納税返礼品としての提供 ・夏山冬里方式のPR
農業		出荷頭数 92頭 (H30)	75頭	113頭	166頭	186頭	1 飼育頭数の増加 ・計画的な増頭(種付け作業、繁殖牛素牛の導入、肥育牛の出荷等)	1 飼育頭数の増加 ・出産頭数が計画より増加 (※出荷頭数に反映されるのが29ヶ月後)	1 出荷頭数 (R3) 146頭 ・R3目標達成率: 88% ・対前年比: 129%	B	(成果) ・出産頭数の増 (課題) ・計画的な増頭 (今後の方向性) ・津野山畜産公社の頭数及び経営管理 ⇒畜産公社・町等による経営会議を開催、毎月の飼育頭数及び経営状況を確認していく。	121頭	1 飼育頭数の増加 ・計画的な増頭(種付け作業、繁殖牛素牛の導入、肥育牛の出荷等)

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
農業	5つの茶販売戦略 (津野町) 【実施主体】 ◎・JA高知県（高西地区） ・津野町	茶製品販売額 3,200万円 (H30)	2,214万円	1,274万円	2,800万円	4,000万円	1 販売体制の強化 ・新たな販路開拓とプロモーション活動 ・つの茶の認知度の向上と販促強化 2 品質管理 ・茶工場の運用とクリーンルームの活用 3 生産の維持 ・つの茶販売戦略会議の取り組みの強化	1 販売体制の強化 ・新茶まつり開催（5月） ・海外進出サポートを手がける(株)アンビジャス中国オフィスを通して上海の企業8社と商談実施（5～6月） ・有機茶の販路拡大のため(株)天空四万十が企業とZOOMによる商談を実施しスウェーデンへの出荷開始（6～10月） ・せいらんの里リニューアルに伴い、茶器の選定やつ茶を使ったメニュー、お茶煎り体験を開発（4月～） ・キリンビール(株)高知支店×津野町「オンラインで乾杯！」イベントの開催（7/10） ・地元小学生へ茶の生産・加工・販売の学習（5～12月） ・ツノチャ・マルシェ@馬屋書店の開催（12/19） ・SNS（インスタグラム）による情報発信の強化	茶製品販売額(R3)：1,892万円 ・R3目標達成率：68% ・対前年比：149%	D	(成果) ・町内観光施設、道の駅等での販促活動に取り組み、R2と比較して茶製品販売実績が回復傾向。 ・SNS、マスコミ等によるPRを強化（インスタグラムフォロー数300→496） (課題) ・茶製品販売体制の強化 (今後の方向性) ・つの茶販売戦略計画を見直し、生産から販売、文化振興の取組を強化するための津野町茶業振興計画(仮称)の策定	3,200万円	1 販売体制の強化 ・新たな販路開拓とプロモーション活動 ・つの茶の認知度の向上と販促強化 ・イベント出店、商談会の参加 ・SNSを活用した情報発信 ・お茶の出前授業の実施 2 品質管理 ・クリーンルームのHACCPに沿った衛生管理の実施活用 ・GAP推進・実施 ・茶工場の効率的な運営 3 生産の維持 ・津野町茶業振興計画(仮称)の策定 ・産地の実態調査 ・放棄茶園の再生 ・茶圃場の確認・トリアージ
			荒茶販売額 4,039万円 (H30)	3,883万円	2,524万円	4,559万円	5,000万円	2 品質管理 ・茶農家への適時摘収の指導 ・茶工場のGAP（生産工程管理）の遵守と農家指導 ・クリーンルームのHACCP遵守 3 生産の維持 ・放棄茶園の調査 ・放棄茶園の整備（協働の茶緑事業、地域おこし協力隊） ・キリンビール（株）高知支店と協働の茶緑事業を継続 ・地域おこし協力隊の募集（10月～） ・産振アドバイザー（課題解決型）の導入によるつの茶販売戦略計画の改定に向けた検討実施	荒茶販売額(R3)：2,862万円 ・R3目標達成率：63% ・対前年比：113%	D		4,800万円	
農業	6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト (四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会 ・(株)無手無冠 ・清流栗庵	JA栗出荷量（西土佐・大正・十和） 26t (R元)	26t	29t	38t	50t	1 生産量の増大 ・せん定状況の確認 ・新改種の推進 ・集荷目慣らし会 ・せん定作業要望調査 ・せん定講習会 ・せん定巡回指導 2 施設機械整備 ・新工場の建設、生産設備等の導入、生産開始 ・新工場の安定稼働 ・高品質ベスト機械稼働（しまんと新一次産業） ・既存2次加工施設の安定稼働（四万十ドラマ） 3 ブランド化 ・商標等の検討、商品開発、販路拡大	1 生産量の増大 ・せん定講習会：6回 ・現地ほ場巡回：6回 ・新改種の推進：3回 ・特選栗検討会：4回 ・選果選別指導：5回 2 施設機械整備 ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した四万十ドラマ新加工工場落成式：5/15 3 ブランド化 ・新商品開発：8品（しまんとDrops、あうんアールグレイ、焼きいもモンブランなど） ・あうんアールグレイ記者発表：7/7 ・しまんと栗ビール：8/13	JA栗集荷量 (R3)：29.5t ・R3目標達成率：77% ・対前年比：102%	C	(成果) ・せん定隊へのせん定指導により徐々に技術が向上してきた。 (課題) ・栗出荷量の増加 ・新商品の開発、販路拡大 (今後の方向性) ・栗出荷量の増加 ⇒低樹高栽培に向けたせん定技術の普及、平地への新植推進 ・ベスト工場、2次加工施設の安定稼働 ⇒製造数量や工程を見直し、販売方法や売り先ごとの製造アイテム分類及びターゲットの明確化	44t	1 生産量の増大 ・せん定状況の確認 ・新改種の推進 ・集荷目慣らし会 ・せん定講習会 ・せん定巡回指導 2 施設機械整備 ・ベスト工場の安定稼働（しまんと新一次産業） ・2次加工施設の安定稼働（四万十ドラマ） 3 ブランド化 ・新商品開発、販路拡大

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
農業	7 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町) 【実施主体】 ○・四万十野菜(同) ・(株)ハマヤ	四万十野菜(同)売上高8,525万円(H30)	8,365万円	1億1,628万円	9,500万円	1.2億円	1 こだわり野菜の生産安定 ・実行支援チーム会 ・GAP更新審査に向けた農場点検 ・有機栽培勉強会 ・有機栽培現地検討会 ・カラシナスき込み実証ほ設置 ・土壌分析に基づく土づくり推進 2 6次産業化の推進 ・6次産業化セミナーアップグレードコース受講 ・産振補助金(ステップアップ事業)活用による事業計画書等の作成 ・アドバイザー活用等による商品化支援 3 外商活動の強化 ・商談会等への参加 ・一元集荷体制、輸送システムの検討	1 こだわり野菜の生産安定 ・実行支援チーム会：9回 ・有機現地検討会：2回 2 6次産業化の推進 ・6次化セミナーアップグレードコース受講：3回 ・産振補助金(課題解決型)を活用した四万十町産有機生姜の高付加価値商品化：6回 ・HACCP研修受講：3回 ・食品表示研修：1回 ・産振補助金(ステップアップ事業)活用による事業計画書等の作成 3 外商活動の強化 ・商談活動：2回	四万十野菜(同)売上高(R3)：1億1,738万円 ・R3目標達成率：124% ・対前年比：101%	(成果) ・4月16日、有機JAS認証を取得。 ・乳酸菌生成エキスを使用した特別栽培の生産者が増加してきた。 ・ショウガシロップ(4種類)、ガリ(3種類)の試作品が完成し令和4年4月からサンプル営業を開始予定。 (課題) ・こだわり野菜の生産安定 ・加工施設の整備による安定生産、販路の確保 (今後の方向性) ・有機、特別栽培農産物の生産安定 ⇒栽培技術向上への支援 ・6次産業化の推進 ⇒産振補助金を活用した加工場整備に向けた取組	1億500万円	1 こだわり野菜の生産安定 ・実行支援チーム会 ・栽培管理指導 ・JGAP農場点検 2 6次産業化の推進 ・実行支援チーム会 ・アドバイザー活用による商品化支援 ・衛生管理の強化 ・加工施設の整備、安定稼働 3 外商活動の強化 ・実行支援チーム会 ・商談会参加 ・特別栽培の推進	
	四万十野菜(同)雇用者数9人(H28～R元累計)	8人	7人	9人	12人		四万十野菜(同)雇用者数(R3)：7人 ・R3目標達成率：78% ・対前年比：100%	(今後の方向性) ・農地保有面積400aのうち栽培面積は200aで、省力化のための機械導入が進んだことから、当面は現状の雇用者数を維持。	7人				

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
農業	8 四万十のうまい豚ク ラスタープロジェクト (四万十町) 【実施主体】 ○・四万十ポークブランド 推進協議会 ・(農) 平野協同畜産 ・(有) 渡辺畜産 ・山中畜産 ・(農) デュロックファ ーム	(農) 四 国デュロック ファーム 加 工品売上高 9,202万円 (H30)	1億588 万円	1億 1,547万 円	1.1億円	1.2億円	1 ブランド化の推進 ・商標登録の取得、周知活動 ・SNSを活用したプロモーション 2 商品開発と販路開拓 ・販促活動 3 生産基盤の強化 ○4農場 ・畜舎整備、環境対策等 ・用地取得、造成 ・臭気対策、効果検証、地区住民の 同意獲得、畜舎整備 ・コンポスト導入	1 ブランド化の推進 四万十ポークブランド推進協議会 ・四万十ポークブランド推進協議会総会(8/4) ・ブランド化に関する協議(8/4) ・四万十ポークホームページ作成打合せ(8/4) 2 商品開発と販路開拓 (農)四国デュロックファーム ・商談会等：42回(4月～3月) 高知県産品商談会、土佐の宴 他 ・商品開発：セブンイレブとの共同開発 「四万十ポークおむすび」西日本・四国で期間限定発売 (4/21～5/12) ソーセージ(業務向け)、四万十ポークのおかず肉(小売り 向け)、生ハム(業務向け)の販売開始 3 生産基盤の強化 ○(農)四国デュロックファーム ・増頭のための施設整備 →繁殖豚舎等4棟(国畜産クラスター事業:7月内示) ・生産性向上のための衛生対策 ○(農)平野協同畜産 ・家畜保健衛生所とのチーム会(4、6、7、11、1月に開 催) ・生産性向上のための衛生対策 ○(有)渡辺畜産 ・増頭のための施設整備 →畜舎移転予定地の造成中(R3) →国畜産クラスター事業による施設整備(R4予定) ・生産性向上のための衛生対策 ○山中畜産 ・臭気対策資材投入→臭気削減効果(臭気測定:6/8) ・生産性向上のための衛生対策	(農)四国デュロックファーム加工 品売上高(R3)：1.25 億円 ・R3目標達成率：114% ・対前年比：108%	S	(成果) ・商談会での営業活動等による売上拡大 (課題) ○四万十ポークブランド推進協議会 ・商標登録活用と周知 ○(農)四国デュロックファーム ・さらなる販路の拡大及び顧客の確保 (今後の方向性) ○四万十ポークブランド推進協議会 ・4農場の協議による商標登録活用 に向けた取組の推進 ○(農)四国デュロックファーム ・加工・直販所の販売額の増加 ⇒イベント出店や商談会での営業活 動等による販路の拡大と顧客の確保	1.2億円	1 ブランド化の推進 ・商標登録の活用と計画的な周知 ・SNSを活用したプロモーション 2 商品開発と販路開拓 ・販促活動、商談会への出展 3 生産基盤の強化 ○4農場 ・生産性向上のための衛生対策 ・臭気対策 ○(農)四国デュロックファーム ・増頭のための施設整備 →繁殖豚舎等4棟整備(R3国畜産ク ラスター事業→R4繰越) →R4以降の施設整備計画の策定 ○(農)平野共同畜産 ・増頭に向けた施設整備の可能性の検 討
			(農) 平 野協同畜 産 母豚数 477頭 (H30)	492頭	465頭	500頭	500頭	(農)平野協同畜産 母豚数 (R3)：471頭 ・R3目標達成率：94% ・対前年比：101%	B	(成果) ・施設整備による頭数の伸びはほぼ目 標を達成済み ・母豚更新のタイミングで頭数の増減あ るが、収容上限の500頭に近い頭数を 維持している (課題) ・今後の増頭には更なる畜舎施設整 備が必要 (今後の方向性) ・畜舎施設整備の可能性を検討 ○(農)平野協同畜産 ・出荷頭数の増加 ⇒衛生管理と生産体制の向上を図 るため、畜舎の施設整備検討 ・加工・直販所の整備検討	500頭	・加工・直販所の整備検討 ○(有)渡辺畜産 ・増頭のための施設整備 →ウインドレス繁殖豚舎整備(R4国ク ラスター事業) ○山中畜産 ・増頭のための施設整備 →法人化、整備可能性の検討	
			(農) 平 野協同畜 産 出荷頭 数 9,693頭 (H30)	10,703 頭	10,724 頭	11,000 頭	11,000 頭	(農)平野協同畜産 出荷頭 数(R3)：10,759頭 ・R3目標達成率：98% ・対前年比：100%	B	(成果) ・施設整備による出荷頭数の伸びはほ ぼ目標を達成 (課題) ・生産性向上のため衛生対策等を継 続し出荷頭数を維持する必要あり (今後の方向性) ・今後の増頭には更なる畜舎施設整 備の可能性を検討 ○山中畜産 ・環境対策後の地域住民への理解醸 成 ⇒環境対策事業の実施と効果検証 ○(有)渡辺畜産 ・出荷頭数増に向けた施設整備 ⇒R4年度畜産クラスター事業での施 設整備	11,000 頭		

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
林業	13 津野町森林・林業再生プロジェクト (津野町) 【実施主体】 ○・津野町森林組合 ・(株)中成 ・津野町	山元貯木場木材取扱量 25,358m ³ (H30)	33,777 m ³	19,049 m ³	28,000 m ³	30,000 m ³	1 原木取扱量の増 ・自伐林家への集荷の働きかけ 2 チップの安定供給 ・バイオマス発電用チップを製造する機械(チップパー等)の安定的な運用	1 原木取扱量の増 ・出荷者に対する価格情報や有利な採材方法の情報提供を行った。 2 チップの安定供給 ・製紙用、バイオマス発電用共に安定して出荷ができた。 ・チップ生産量(R3)：17,890 t (対前年同期比：109%)	山元貯木場木材取扱量(R3)：30,272m ³ ・R3目標達成率：108% ・対前年比：159% ※山元貯木場木材取扱量については、昨年度はコロナ禍により例年に比べて取扱量が減少していたことや、木材価格の回復や、津野町森林組合が国有林の間伐事業を受託していることから、対前年比が増加となった。	A (成果) ・木材取扱量が一定回復した (課題) ・ウッドショックにより高騰した原木価格が、今後どれくらいの価格で安定するか先行きが不透明 (今後の方向性) ・価格情報や有利な採材方法を組合員や自伐林家に提供し出材を促していく。 (成果) ・チップの安定供給が出来た (今後の方向性) ・大規模バイオマス発電用等燃料用需要への安定供給を継続して実施	29,000 m ³	1 山元貯木場木材取扱量の増 ・自伐林家・林業事業者への出荷の働きかけ ・自伐林家への市場の情報提供及び採材方法の情報提供 ・自伐林家への支援(作業道の開設) ・津野町森林組合 高性能林業機械の導入(事業計画の作成) 2 チップの安定供給 ・バイオマス発電用チップ、製紙用チップの出荷先への安定した供給体制の確保(原木の確保、チップパー等の機械の運転)	
													14 浦ノ内湾産養殖マグイ等の販路拡大 (須崎市) 【実施主体】 ○・土佐鯛工房 ・(株)小島水産 ・乙女会 ・(株)大東冷蔵 ・高知県漁協深浦支所
乙女鯛出荷尾数 20.3万尾 (H30)	24.1万尾	17.0万尾	25.0万尾	30万尾	27.5万尾								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
水産業	16 アメコ養殖事業の再生拡大 (橋原町) 【実施主体】 ○・集落活動センターおちめん ・橋原町	売上高 0万円 (R元)	0万円	0万円	0万円	400万円	1 生産体制の確立・強化 ・アメコ養殖部会の設立 2 担い手の確保・伝承 ・現事業者の下で養殖事業の研修 3 販路の拡大 ・現時点では販売するアメコなし (現状では放流事業のみ)	1 生産体制の確立・強化 ・「アメコ養殖事業部会」設立 (4月) ・「アメコ養殖事業部会」において生産計画等の検討 (4回) ・生産拡大のための既設設備の改修 ・県のオープンイノベーションプラットフォームを活用した課題説明会開催 (12月) 2 担い手の確保・伝承 ・新たな担い手の確保 (R3.4月～1名) 現事業者の元で養殖事業の研修開始 3 販路の拡大 ・卵等の販売について先進地視察：仁淀川町名野川 (R3.7月) ・産振アドバイザー(課題解決型)を活用した販売戦略及び収支計画策定支援 (2回)	売上高 (R3) : 0万円 ・R3目標達成率：－ ・対前年比：－	(成果) ・新たな担い手における生産体制の確立 ⇒稚魚の飼育を指導支援 (課題) ・養殖池の造成 ⇒規模や池の配置等の検討、造成 (今後の方向性) ・養殖場のデータ管理 ⇒養殖池のデータ管理システム構築に向けた検討	0万円	1 生産体制の確立・強化 ・アメコ養殖事業部会の開催 ・田野々養殖池の増設検討・開始 ・中山間デジタル化補助金による養殖事業効率化の取り組み 2 担い手への養殖事業の伝承 ・担い手によるアメコの育成 ・孵化作業 ・稚魚の育成 3 販路の拡大 ・販路の開拓 (民宿や飲食店等への営業) ・加工品の開発・検討	
商工業	17 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大 (須崎市) 【実施主体】 ○・(株)アースエイト	売上高 5,418万円 (H30)	5,607万円	1億 3,539万円	7,000万円	8,000万円	1 生産の拡大 ・作付け面積の拡大・栽培方法及び商品製造作業の効率化 2 商品の高付加価値化 ・新商品1品を試験販売 ・機能性表示にかかる専門家への相談 (7月) ○販路の拡大 ・県産品商談会への参加 (10月) 3 インターネット等を活用した直接販売の強化 ・情報発信手段の確立	1 生産の拡大 ・作業の機械化に向けた検討・試験 2 商品の高付加価値化 ・新商品1品を試験販売 ・機能性表示にかかる専門家への相談 (7月) ○販路の拡大 ・県産品商談会への参加 (10月)	売上高 (R3) : 4,116万円 ・対前年比：30% ・対R元年比：73% ※昨年度は国のコロナ支援制度による売上が大きかったこと及び本年度はふるさと納税の売上が減少したため	(成果) ・新規取扱店舗8店 ・自社HPでの売上の増加 (課題) ・マンパワーの不足により営業や高付加価値化等新たな展開に対してのリソースが不足。 (今後の方向性) ・事務作業の軽減をはかり、時間を確保する仕組みづくり。 ・販路拡大に向けた須崎市のふるさと納税をはじめとする、販売方法等の検討。	7,500万円	1 生産の拡大 ・作付け面積の拡大・栽培方法及び商品製造作業の効率化 2 商品の高付加価値化 ・新商品開発及び広報の実施 3 インターネット等を活用した直接販売の強化 ・SNS等を活用した情報発信及び個人顧客の獲得 ・EC強化に伴い増加した事務作業に対する効率化	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
商 工 業	20 中土佐町SEAプロジェクト (中土佐町) 【実施主体】 ○・(株)SEAプロジェクト ・中土佐町	年間売上額(施設全体) 2.8億円 (H30)	2.5億円	2.3億円	3.9億円	3.9億円	1 賑わい創出への展開 ・取扱商品等の充実・見直し ・季節ごとのフェア・イベントの実施 ・生産者やテナント店舗との連携 ・アドバイザー制度を活用した施設づくりの検討 2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画の取り組みを通じた連携事業の検討 ・周辺観光施設と連携した取組の検討 3 地産外商の取り組み ・新たな商品開発の実施 ・イベント・商談会への出展 ・マルシェなかとさ出荷者協議会との連携 ・なかとさdo外商連絡協議会への参画による外商活動の推進	1 賑わい創出への展開 ・内部運営協議(5月～3月 7回) ・ECサイト出品する出荷者調整(4月～ 3件) ・マルシェなかとさ出品登録者訪問(7月～9月 4件) ・食品衛生法の改正内容に関する研修への出席(4月、11月) (県内イベント出店) ・れんげいこうち イオンモール(6月、8月) ・TSUNAGUマーケットinアグリコレット(10月) ・JR四国おもてなし観光列車(4月～) ・久礼駅での物販販売 ・第3回土佐の宴(名古屋)出店(11月) ・高幡地区大商談会参加(11月) ・第11回土佐の宴(大阪)出店(3月) ・新商品販売 なかとさ母ブラウンビール(4月～) なかとさ母ホワイトビール(3月～) ・風工房：商品開発 6次産業化セミナー実践コース受講(7月～) ・なかとさマルシェ：人材育成、魅力ある店づくり 産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)による支援(12月～1月 3回) 2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画 事務局協議(4月) ・黒潮本陣との連携企画実施 スプリングフェア実施(4/1～4/30) 黒潮本陣25周年企画と合わせた道の駅クーポン発行(12月) 3 地産外商の取り組み ・町の地産外商に関する関係機関協議(4月～3月 8回) ・なかとさdo外商連絡協議会(4月) ・地域ブランド研究会セミナー(6月～12月 7回) ・外商イベント参加 MADE IN NAKATOSAフェア参加(11月 1事業者) ・第11回土佐の宴(大阪)出店(3月)	年間売上額(R3)：2.6億円 ・R3目標達成率：67% ・対前年比：113% ・対R元年比：104%	D	(成果) ・新商品の開発 2商品 ・アドバイザーの導入により魅力ある店づくりに取り組み、売上げの増加につながった。 (課題) ・マルシェなかとさ(直販店舗)への商品の安定供給 ・周辺施設との連携 ・外商での「中土佐町」の周知 (今後の方向性) ・マルシェなかとさ(直販施設)への商品の安定供給 ⇒出荷者訪問、新規出荷者の掘り起こしを行いながら、品揃えの充実を図る。 ・集客の維持・拡大 ⇒新型コロナウイルス感染症の対策の徹底と、状況に合わせた店舗運営やSNS等での情報発信、道の駅なかとさ全体のイベントの企画・立案に関して各テナントとの連携を図り、協力体制を強化していく。 ⇒産振アドバイザーを活用してマルシェなかとさの課題整理をしていく。	3.9億円	1 賑わい創出への展開 ・取扱商品等の充実・見直し ・季節ごとのフェア・イベントの実施 ・旬の食材やロケーションを活かした広報・PR活動の実施 ・生産者やテナント店舗との連携 ・アドバイザー制度を活用した施設づくり 2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画の取り組みを通じた連携事業の検討 ・周辺観光施設と連携した取組の検討 3 地産外商の取り組み ・新たな商品開発の実施 ・イベント・商談会への出展 ・マルシェなかとさ出荷者協議会との連携

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
商 工 業	21 中土佐町地産外商 の取り組み (中土佐町) 【実施主体】 ◎・中土佐町 ・(株)SEAプロジェクト ・企画・ど久礼もん企業 組合 ・中土佐町商工会	商品開発 品目数 0商品 (R2)	-	-	3商品	10商品	1 地産外商に向けた体制づくり ・中土佐町まちづくり課に地産外商を業 務として位置づけ ・なかとさdo外商連絡協議会の開催 ・町内事業者聞き取りと整理、do外商 の活動計画(案)作成 ・小規模ワーキンググループ 計画に基づく実践活動について意見 交換 ・県内及び県外の地産外商事例の把 握(視察研修) ・町内事業者への外商支援策周知 2 地産外商の推進 ・地域ブランド研究会メンバーを中心とし た、商品開発・磨き上げ開始 ・必要案件に応じて、個別アドバイザー 招聘依頼 ・地域おこし協力隊配置(商工会) ・地域ブランド研究会メンバーを中心とし た、販路開拓・拡大の開始 ・地域ブランド研究会HPの充実と情報 発信 ・外商フェアや商談会等への参加 ・外商に関するセミナーの実施	1 地産外商に向けた体制づくり ・なかとさdo外商事務局打合せ(4月、6月 3回) ・なかとさdo外商連絡協議会の開催(4月) ・四国経済産業局との意見交換(11月) 2 地産外商の推進 ・商品開発に取り組む事業者 4事業者(7月～) 2事業者(6次産業化セミナー-実践コース受講) ・地域おこし協力隊着任(5月) 地域ブランド研究会Instagram開設 フォロワー640人 地域ブランド研究会HPの更新 ・れんげいこうち イオンモール出店(6月、8月 2事業者) ・れんげいこうちTSUNAGUマーケットinアグリコレット出店(10 月 1事業者) ・バイヤー招聘と外商支援 ボルシェ企画シェフ(東京) 招聘(7月) ボルシェ企画フェア(新規市場開拓支援事業関連:9月 中止) ・地域ブランド研究会セミナー(6月～12月 7回延べ46人) Instagram、YouTube活用、事業計画の策定など ・事業者紹介パンフレット「MADE IN NAKATOSA」作成 (10月 地域ブランド研究会) ・MADE IN NAKATOSAフェア(11月 12事業者参加) ・高知県産品商談会「土佐の宴」(大阪)参加(3月) ○産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)による支援 ・着地型の地産外商:SEAプロジェクト(道の駅なかとさ)人 材育成、魅力ある店づくり支援(12月～1月 3回) ・発進型の地産外商:ど久礼もん企業組合 事業戦略策定(12月～2月 4回)	商品開発 品目数(R3): 4商品 ・R3目標達成率:133% ・対前年比:-	S	(成果) ・地産外商に向けた体制づくりと方向性 の共有。 ・地産外商機会の提供 ・商品開発 4商品 ・事業戦略の策定 1社 (課題) ・「なかとさ」ブランドの魅力向上 ・事業者が連携した地産外商機会の 拡大 (今後の方向性) ・なかとさdo外商連絡会として、情報共 有を中心に活動を展開 ・地域ブランド研究会を中心とした外商 支援	3商品	1 地産外商に向けた体制づくり ・連絡会での情報共有 2 地産外商の推進 ・地域ブランド研究会を中心とした外商 活動の支援 ・必要案件に応じた個別アドバイザーの 活用 ・地域ブランド研究会HPの充実と情報 発信 ・外商フェアや商談会等への参加 ・外商に関するセミナーの実施 ・中土佐町産業振興事業費補助金の 募集 ・食のつながり支援事業費補助金の募 集

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
商 工 業	23 津野町地産地消・外 商販売戦略 (津野町) 【実施主体】 ○・(有)津野町ふるさとセ ンター ・(株)満天の星 ・(一財)天狗荘 ・津野町	直販所総 販売額 1.36億円 (H30)	1.29億 円	1.42億 円	1.38億 円	1.40億 円	1 出荷量の確保と高付加価値農産 物の出荷 ・営農コーディネーターによる生産者 指導 ・HACCPに沿った衛生管理の周知 及び指導 ・営業許可制度の周知及び指導 ・6次産業化サポート事業による取組 ・サトイモ商品の製造販売 ・町内生産者の先進地視察研修 ・一定の売上額のある生産者の堆肥 補助 2 津野町産品の外商力の強化 ・参加する見本市の選定、PR方法 等の検討 ・見本市等、展示・商談会への参加 による販路獲得	1 出荷の確保と高付加価値農産物の出荷 ・営農コーディネーターによる生産者の巡回指導（通年） ・HACCPに沿った衛生管理の実践に向けた研修実施 （11/5）及び食品衛生責任者講習の実施（12/15） ・6次産業化サポート事業による(有)ふるさとセンターの経営計 画策定支援及び道の駅布施ヶ坂の販売強化に向けた店舗レイ アウトの見直し（8回） ・サトイモを活用した商品「里芋担々麺」を開発（9月） ・コロナ禍のため視察研修は未実施。町内でプロ農家を対象 に栽培研修実施（2回） ・農業用堆肥を生産者へ無料提供（1～3月） 2 津野町産品の外商力の強化 ・コロナのため実績なし	直販所総販売額（R3）： 1.32億円 ・R3目標達成率：96% ・対前年比：93%	B	(成果) ・6次産業化サポート事業を活用した道 の駅のリニューアルを実施し、販売強化 につなげた。また経営コンサルタントによ る経営戦略を策定した。 (課題) ・体制の充実 ・地域おこし協力隊を募集したが、応募 につながらない。 (今後の方向性) ・商談会や見本市等開催の情報収集 及び積極的な参加による、津野町産 品の販売力のさらなる強化。	1.39億 円	1 出荷量の確保と高付加価値農産 物の出荷 ・営農コーディネーターによる生産者 指導 ・HACCPに沿った衛生管理の周知 及び指導 ・営業許可制度の周知及び指導 ・6次産業化サポート事業による(有) ふるさとセンターの経営計画の進捗 管理 ・サトイモ商品の製造販売 ・町内農家に対する栽培技術研修 ・一定の売上額のある生産者の堆肥 補助 ・津野町の効果的な魅力発信（移住 とからめた）による地域おこし協力隊 の募集 2 津野町産品の外商力の強化 ・参加する見本市の選定、PR方法 等の検討 ・見本市等、展示・商談会への参加 による販路獲得
	(株)満天の 星売上 2.07億円 (H30) ※決算期 別：前年 10～9月	2.01億 円 (H30.10 ～R1.9)	1.79億 円 (R1.10 ～R2.9)	2.16億 円 (R2.10 ～R3.9)	2.49億 円 (R4.10 ～R5.9)	1 各社の基盤強化と連携 ・3者モニタリングの実施 ・役場を含む4者会議の実施 ・ふるさとセンターと(株)満天の星の 連携事業の検討 ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへ食材供給の検討 ・満天の星から星ふるヴィレッジTEN GUへの土産品の開発	1 各社の基盤強化と連携 ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ向け、新田 地区へ予冷庫を設置、食材供給の開始（11月～） ・ふるさとセンターから町内介護施設及び給食センターへの 食材供給開始（10月～） ・星ふるヴィレッジTENGU土産ショップへ満天の星コーナー を設置（7月～） ・満天の星開発の里芋担々麺のふるさとセンターでの販売 開始（9月～）	(株)満天の星売上（R2.10 ～R3.9月末）：1.76億円 ・R3目標達成率：81% ・対前年同期比：98.0%	C	(成果) ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへの食材供給体制の確立や、 満天の星のお土産コーナー設置など各 社連携した取組を実施。 (課題) ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへ供給する食材が少ない。 ・ふるさとセンターと満天の星が連携した 新たな取り組みの検討。 (今後の方向性) ・役場を含む4者との定期的な協議の 実施。	2.32億 円 (R3.10 ～R4.9)	1 各社の基盤強化と連携 ・3者モニタリングの実施 ・役場を含む4者会議の実施 ・ふるさとセンターと(株)満天の星の 連携事業 ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへの安定した食材供給 ・満天の星から星ふるヴィレッジTEN GUへの土産品の供給	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)			
商工業	24 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備 (四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十町 ・(株)あぐり窪川 ※地域産業クラスター関連 (四万十のうまい豚クラープロジェクト)	豚まん等販売額 9,300万円 (H30)	9,880万円	1.3億円	1.9億円	2.33億円	1 加工施設の整備 ・新商品のプロモーション活動 事業計画に係る打合せ 旧加工場 高知版HACCPステージ3取得 2 商品開発と販路開拓 ・県外中心の営業活動 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売 秋冬商品商談会での営業強化 ・SNSを活用した個人顧客の獲得 専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの強化 3 地域資源の発掘と活用 ・加工用農林水産物の生産・集出荷体制の構築	1 加工施設の整備 ・旧加工場 (スイーツ加工場) の高知県版HACCP第3ステージ認証取得への取組 (保健所との協議他) ・アイスの発送用としてドライアイス製造する機器を購入 (高知県食品産業総合支援事業費補助金) 2 商品開発と販路開拓 ・(株)あぐり窪川との定例会 ・商談会等への参加: 15回 (4~3月) ・無添加・新パッケージの豚まん販売開始 (5月~) ・化学調味料不使用のしゅうまい販売開始 (8月~) ・新型コロナウイルス感染症拡大による「創業祭」、「あぐりでひんやり夏祭り」の中止 ⇒特設ブースを設ける等して「創業フェア」、「あぐりでひんやり夏フェア」として実施 ・自社サイト上のオンラインショップ (R2改修済) での販売 ・R4.4月より、豚まんの価格見直し (値上げ) 3 地域資源の発掘と活用 ・豚まん原料 (玉ねぎ) の生産・集荷に関する検討	豚まん等販売額 (R3) : 1,43億円 ・R3目標達成率: 75% ・対前年比: 110%	C	(成果) ・無添加・新パッケージの豚まん、化学調味料不使用のしゅうまいの販売開始 (課題) ・販売額の増加 ・旧加工場の衛生管理の強化 ・道の駅の入込数の減 ・人材不足 (今後の方向性) ・外販を強化するための戦略づくりの検討 ・高知県版HACCP第3ステージ認証取得 (旧加工場) ・人材確保に向けた取組	2.1億円	1 加工施設の整備 旧加工場 高知県版HACCPステージ3取得 2 商品開発と販路開拓 ・営業活動の展開 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売 外販強化のための戦略づくりと商品の磨き上げ 秋冬商品商談会での営業強化 営業担当職員等確保 ・SNSを活用した個人顧客の獲得 専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの強化 3 地域資源の発掘と活用 ・加工用農林水産物の生産・集出荷体制の構築
商工業	25 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大 (四万十町) 【実施主体】 ◎・(株)ぶらうん	加工品売上高 5,210万円 (H30)	6,925万円	7,635万円	1.1億円	1.27億円	1 商品開発 ・新規 (惣菜) 部門の商品開発 商談会等への参加によるバイヤー・消費者の嗜好把握 商品開発に関するセミナー等の受講 2 販路開拓 ・2号店の営業安定 本店および2号店の人材確保 ・営業活動による販路拡大 イベントへの参加、商談会等への出展	1 商品開発 ・新商品の開発: 3品 (茶碗蒸し (低価格帯のみ)、カヌレ、オムレット) ・新商品開発に関するセミナー受講等: 6次産業化セミナーアップグレードコース (農産物マーケティング戦略課)、商品づくりワーキング (地産地消・外商課) 参加 ・貿易に関するWEB講義の受講 (4~7月: 3回) ・高知県版HACCP第3ステージ認証取得 (10月) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した製造機器の強化 2 販路開拓 ・高須店閉店 (7/25) →フジグラン野市店内にて新店オープン (8/18プレオープン、8/21グランドオープン) ・商談会等: 27回 (4~3月)	加工品売上高 (R3) : 8,845万円 ・R 3 目標達成率: 80% ・対前年同期比: 116%	C	(成果) ・県主催のセミナー等の参加による新商品の開発 (課題) ・加工品の安定生産及び販売体制の強化 ・2号店における製菓スタッフの不足 (今後の方向性) ・企画段階からバイヤー等と連携した新商品開発の実施 ・人材不足への対応	1.26億円	1 商品開発 ・新規 (惣菜) 部門の商品開発 商談会等への参加によるバイヤー・消費者の嗜好把握 商品開発に関するセミナー等の受講 2 販路開拓 ・2号店の営業安定 本店および2号店の人材確保 ・営業活動による販路拡大 イベントへの参加、商談会等への出展

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成率(※)			
商工業	27 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト (四万十町) 【実施主体】 ◎・OUCHI企画(同)	売上高 300万円 (R2)	—	300万円	1,500万円	1,500万円	1 組織体制の強化 ・アドバイザーとして元協力隊との協力 ・資金の確保（金融機関からの融資も含めた検討） 2 商品の開発と販路拡大 ・HP、リーフレット、レーザー加工機等の整備検討（ステップアップ事業活用予定） ・ギフトショーへの視察、出展計画についての協議 ・設置型タイニーハウスの試作、商品化 ・樽製造機器の整備についての検討 3 生産拠点の検討と整備 ・展示機能も兼ね備えたサウナ付きベンション、空き家改修の検討	1 組織体制の強化 ・戦略アドバイザー（元協力隊）との協力体制の確立 2 商品の開発と販路拡大 ○販促、販路拡大 ・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)を活用したHP、リーフレット等の作成、新規顧客の開拓に向けたTURNS商店への出店 ・国際雑貨EXPOへの出店（大阪：9/29～10/1） ・高知ものづくり総合技術展への出展（11/11～1/13） ○新商品開発 ・設置型サウナ、タイニーハウスの試作 ・端材を活用した商品の開発（コースター、ピンバッジ、鮎竿立て） ・産業振興アドバイザー（課題解決型）の活用による新商品の開発（パレットベッド） 3 生産拠点の検討、整備 ・生産拠点の方向性の検討と視察（随時） ※視察先：ONIWA等	売上高（R3）：620万円 ・R3目標達成率：41% ・対前年比：207%	D	(成果) ・新商品の開発（パレットベッド 他） ・ブランドイメージの構築、ブランドロゴ等の検討 ・県内外の展示会出展によるPR (課題) ・価格も含めたサウナメントの新製品等との競合 (今後の方向性) ・関係団体との協力体制の構築、強化 ・インテリア雑貨等のメイン商品の開発	1,500万円	1 組織体制の強化 ・地域おこし協力隊（現役、OB）との連携および協力 ・周辺製材事業者との協力体制の構築 2 商品の開発と販路拡大 ・インテリア雑貨等の商品開発 ・展示会への出展、四万十町地産外商室との連携 ・SNSを活用した広報 ・サウナ体験プログラムの造成 3 生産拠点の検討と整備 ・生産拠点整備に向けた安定的な売りの確保、バイヤーとの交渉

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
観光	29 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域) 【実施主体】 ○・奥四万十観光協議会 ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町	主要観光施設入込客数 2,306,990人 (H30)	2,289,259人	1,558,089人	2,519,234人	2,646,000人	1 観光情報の発信 ・季節に応じた雑誌やフリーペーパーへの広告掲載 ・ホームページを活用した情報発信 ・奥四万十観光ガイドブック・マップ改修 2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売 ・域内周遊企画の企画検討(宿泊・体験施設の連携) ・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツの造成 ・四国内プロモーション活動(道の駅、レンタカー会社営業) ・観光コンベンション協会・四国ツーリズム創造機構等とのセールス活動 ・企業訪問による誘致活動の実施(東京、名古屋、福岡、広島、岡山、大阪)	1 観光情報の発信 ・HP等による奥四万十エリアの観光情報の発信 2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売 ・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業へ幅多広域観光協議会との共同参画による体験型コンテンツ等の磨き上げ (コンテンツ検討会: 6/28) (モニターツアー: 7/13~7/16) (販売促進会議: 12/23) ・奥四万十温泉郷周遊スタンプラリー(10/1~3/31) ・持続可能な観光に向けたワークショップin高知(12/20、12/21)	主要観光施設入込客数(R3)1,699,260人 ・R3目標達成率: 67% ・対前年比: 109% ・対R元年比: 74% ※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入込数が大幅に落ち込んでおり、R3年度は、通常営業を再開したため、入込数が一定回復したことによる増加	D	(成果) ・一般社団法人化に向けた関係市町の合意形成 (課題) ・関係市町村を巻き込んだ事業戦略策定 (今後の方向性) ・奥四万十観光協議会の組織のあり方に関して継続的な協議 ・魅力ある観光資源の発掘、磨き上げ及び情報発信等 ⇒担当者部会と連動した体験プログラムの精査、磨き上げ、HP・SNS更新頻度の向上	2,594,811人	1 観光情報の発信 ・季節に応じた雑誌やフリーペーパーへの広告掲載 ・ホームページを活用した情報発信 ・インバウンド観光大使育成事業 2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売 ・域内周遊企画の企画検討(宿泊・体験施設の連携) ・四国内プロモーション活動(道の駅、レンタカー会社営業) ・観光コンベンション協会・四国ツーリズム創造機構等とのセールス活動 ・企業訪問による誘致活動の実施(東京、名古屋、福岡、広島、岡山、大阪)
			主要宿泊施設宿泊者数 56,441人 (H30)	57,482人	38,779人	61,634人	64,000人	3 広域観光組織の機能強化 ・奥四万十広域観光振興推進計画の実施及び、新たな戦略の立案・実施 第1期中期計画(H31~R3)に沿った事業の実施 第2期中期計画(R4~R6)の作成 ・地域内で連携体制の強化 ワンストップ機能の構築(プラットフォーム機能) 推進部会、担当者部会(専門部会)の開催 ・観光客受入大勢基盤・マーケティング機能の強化 事業者を対象としたスキルアップ研修会の開催 担当者部会(専門部会)運営による受入体制の磨き上げ 先進地視察の事前調査 インバウンド受入体制の構築(受入特区の支援) 観光施設等やイベントでのアンケート調査の実施・分析・フィードバック	3 広域観光組織の機能強化 ・一般社団法人化による体制強化 ・奥四万十広域観光振興推進計画の実施及び、新たな戦略の立案・実施 第2期中期計画(R5~R7)の作成 ・地域内で連携体制の強化 ワンストップ機能の構築(プラットフォーム機能) 推進部会、担当者部会(専門部会)の開催 ・観光客受入大勢基盤・マーケティング機能の強化 事業者を対象としたスキルアップ研修会の開催 担当者部会(専門部会)運営による受入体制の磨き上げ 先進地視察の事前調査 インバウンド受入体制の構築(受入特区の支援) 観光施設等やイベントでのアンケート調査の実施・分析・フィードバック	主要宿泊施設宿泊者数(R3): 47,073人 ・R3目標達成率: 76% ・対前年比: 121% ・対R元年比: 82%	D	63,483人	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
観光	30 須崎市海のまちプロジェクト (須崎市) 【実施主体】 ○・須崎市 ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会	主要施設の来場者数 10.1万人 (R2)	-	10.1万人	11万人	14.6万人	1 海のまち創り・リノベーション ・海のまちのブランディング ・コアゾーンにおけるエリアの策定及びリノベーション ・拠点施設等の整備 2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・既存体験や名物等のブラッシュアップ ・縁日商店街企画の検討実施 3 エリア外との連携促進 ・海のまちの仲間づくり ・須崎市内への波及や周辺エリア等との連携の検討、実施	1 海のまち創り・リノベーション ・海のまちプロジェクトの推進にかかる全体協議会の開催 2回(7月、1月) ・JR須崎駅をJR海のまち須崎駅として改修(11～12月) ・地域住民と合同でJR海のまち須崎駅装飾式の開催(12/11) ・JR海のまち須崎駅点灯式の開催(12/18) ・(仮称)大漁食堂整備についての検討 2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・報道機関と連携した情報の発信 ・地域内事業者等と連携した「海のまち須崎おもてなしキャンペーン」及び駅前で「海のまちマルシェ」の開催(12/19～1/31) ※一部感染拡大による中止あり ・高知市内有名店等を招き大型の「海のまちマルシェ」を開催(1/16) ・高知大学・須崎総合高校と連携した地域資源調査についての検討 3 エリア外との連携促進 ・ふるさと納税寄付金の選択可能な使途として「海のまちプロジェクトの推進に関する事業」を設定 ・浦ノ内マリパークとの連携、野外体験施設オープンに関する関わりの検討	主要施設の来場者数 (R3): 104,431人 ・R3目標達成率: 95%	B	(成果) ・エントランスエリアにおける海のまち須崎駅のリノベーション ・コロナ禍におけるイベントの開催及び一定の集客 (課題) 継続して人を呼び込む仕掛けづくり (今後の方向性) ・エリア内の立地や周遊を考慮した拠点施設の検討を進めていく。また、将来的な魚市場の改修や図書館整備も含めた拠点施設の役割についても検討を行う。 ・(仮称)大漁食堂の着実な整備 ・拠点施設及びその運営体制の検討	134,500人	1 海のまち創り・リノベーション ・海のまちのブランディング ・コアゾーンにおけるエリアの策定及びリノベーション ・拠点施設等の整備 2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・既存体験や名物等のブラッシュアップ ・縁日商店街企画の検討実施 3 エリア外との連携促進 ・海のまちの仲間づくり ・須崎市内への波及や周辺エリア等との連携の検討、実施
	エリア内新規出店数 6件 (R2)	-	6件	3件	7件(R3～累計)	2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・起業支援制度の検討・実施	2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・起業支援等に向けた保証料補助制度の実施(12/16～) 「須崎市中企業者等経営支援事業保証料補助金」	エリア内新規出店数(R3): 3件 ・R3目標達成率: 100%	A	(成果) ・起業支援制度の創出 ・予算満額活用 (課題) ・海のまち創りによる出店に際しての魅力度のさらなる向上 (今後の方向性) ・継続した活用に向けての引き続きの周知及び予算確保	累計5件	2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・起業支援制度の継続実施 ・制度の周知	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
観光	31 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化 (須崎市) 【実施主体】 ◎・須崎市	交流人口 20,836人 (H30)	23,433人	8,201人	23,000人	24,000人	1 海洋スポーツの振興 ・2020オリンピック・パラリンピックの受入聖火リレーの開催 ・チエコカヌーチーム事前合宿受入にかかる関係者間協議等 ・チエコカヌーチーム及び水泳チームの事前合宿受入 ・ホストタウン交流事業 ・合宿プロモーション・モニター事業 ・国内実業団チームへのPR活動や協議 ・国内大学チームへのPR活動や協議 ・競技団体へのPR活動活動や協議 ・全国大会等の海洋スポーツ大会誘致 ・カヌー全国中学選手権誘致に向けた関係者との協議 ・カヌーイベントの開催 ・日本選手権誘致に向けた競技のテスト開催 2 魅力ある体験メニューの磨き上げ ・コモドウラノウチの実施 ・先進地等の視察 ・次年度に向けた検討会の実施 ・PRの強化 ・観光関連研修会やセミナーへの参加 ・アドバイザー事業を活用したメニューや職員のスキルアップの検討 ・R1年度に作成した営業素材を活用した営業活動の実施 3 地域の活性化 ・市内事業者等との連携強化の検討 ・地域を含めた関係者間協議の実施 ・関係者間の情報共有 ・海上アスレチック開催期間に合わせた市内周遊促進クーポン事業の実施 ・OWSに合わせた地域イベントの実施 ・次年度以降についての関係者間協議の実施	1 海洋スポーツの振興 ・東京五輪チエコ共和国カヌー・ボートチーム事前合宿の受け入れ ・感染症対策を行ったうえでチエコ代表の応援会 ・すさきOWS2021の開催検討および感染症対策（実行委員会3回（4月、7月、10月）） ・日本水泳連盟主催日本選手権水泳競技大会OWS競技とすさきOWS2021の同時開催 ・感染症対策における管轄保健所及び所管する県スポーツ課との相談協議 2 魅力ある体験メニューの磨き上げ ・コモドウラノウチの一部制限開催 ・次年度の野外体験施設オープンをにらんだ体験メニューの開催地の変更 3 地域の活性化 ・周辺観光施設との連携 ・高知県観光施設等緊急整備事業の活用による屋外体験型施設整備との連携 ・鳴無神社および坂内カヌー場棧橋の改修による受け入れ体制強化	交流人口：9,578人 ・R3目標達成率：42% ・対前年同期比：117% ・対R元年同期比：41%	(成果) ・東京五輪チエコ共和国カヌー・ボートチーム事前合宿の受け入れ ・日本水泳連盟主催日本選手権水泳競技大会OWS競技とすさきOWS2021の同時開催 (課題) ・合宿利用者の宿泊場所及び飲食提供体制の不足 ・新型コロナウイルスによる競技におけるキャバ制限 (今後の方向性) ・宿泊場所の不足や、感染症対策を含めた合宿時の飲食提供の方法等にかかる継続的な協議。 ・東京五輪カヌーメダリストの合宿、OWS日本選手権の開催という実績を活かした大会誘致。 ・コロナ禍における待機所等スペース確保への対応。	24,000人	・R3年度までの「須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化」「須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備」は「No.31」に取り組みを統合し削除した。 1 海洋スポーツの振興 ・合宿等のプロモーション・定着に向けた活動 ・全国大会等の海洋スポーツ大会誘致 2 体験型観光の推進 ・各種体験メニューのブラッシュアップ ・PRの強化 ・教育旅行等の受入体制の強化 3 地域活性化に向けた連携強化 ・市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討 ※R4から「No.31浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大における地域の活性化」してエリア一帯の交流人口拡大に取り組み。 (交流人口 R5目標値：33,000人)	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
観光	34 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町) 【実施主体】 ○・梶原町商工会 ・梶原町 ・松原まろつど会 ・坂本龍馬脱藩の郷ゆすはらであいの会 ※R4からゆすはら雲の上観光協会を追加	宿泊者数 8,285人 (H30)	8,279人	7,999人	7,500人	9,000人	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実 ・梶原町の自然や文化を生かす取り組み (一社)ゆすはら雲の上観光協会の設立 新組織による観光施策の実施 津野山神楽や太郎川公園を活用した森林アスレチック等の体験プログラムの実施 2 誘客活動 ・誘客のための情報発信 ・隈研吾氏設計による建築物を核とした観光資源の磨き上げ 町内イベントの情報発信 オリジナル土産物の販売 映像やパンフレットによるPR 3 森林セラピー受入体制の強化 ・森林セラピーの受入体制の充実 「あいの里まつばら」の受入について、アドバイザーの助言・指導を元に地域での受入態勢強化 久保谷森林セラピーガイドの育成・スキルアップ 4 受入基盤の整備 ・太郎川公園の新たな整備 ホテル・道の駅・ギャラリー以外の施設について、施設ごとに再生に取り組み	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実 ・隈研吾の建築物を活かした町歩きツアーの実施 2 誘客活動 ・誘客のための情報や映像の発信 ・隈研吾オリジナル土産の販売 3 森林セラピー受入態勢の強化 ・登録ガイドの育成 ・久保谷森林セラピー等梶原町の森林資源を活かしたイベントの開催 ・久保谷セラピーロードについて、雑誌、テレビ等のメディアでの宣伝「(雑誌)るるぶフリー」、ラジオ「市町村ガイド」など 4 受け入れ基盤の整備 ・太郎川公園キャンプ場の整備(企画整理、ウッドサイトの整備)	宿泊者数 (R3) : 7,565人 ・R3目標達成率: 101% ・対前年比: 95%	A	(成果) ・太郎川公園キャンプ場の整備 ・(一社)ゆすはら雲の上の観光協会のHP開設 ・梶原と隈研吾の建築案内ガイド受入の増加(前年度比1.67倍) ・久保谷セラピーロードについて、雑誌、テレビ等のメディアでの宣伝「(雑誌)るるぶフリー」、ラジオ「市町村ガイド」など (課題) ・公園全体の利用者数の減 ・ホテル、レストランの施設老朽化 ・道の駅の情報発信及び物販機能の強化 (今後の方向性) ・ホテル、道の駅エリアの基本構想の再策定 ・太郎川公園・施設エリアの改修(観光振興推進総合支援事業費補助金の活用)	4000人	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実 ・津野山神楽や太郎川公園を活用した森林アスレチック等の体験プログラムの実施 2 誘客活動 ・映像やパンフレットによるPR 3 森林セラピー受入態勢の強化 ・久保谷森林セラピーガイドの育成・スキルアップ 4 受入基盤の整備 ・基本構想の再策定 ・太郎川公園エリアの整備(きつつき学習館の改修、多言語対応サインの設置) ・キャンプ場等運営アドバイザーによる経営改善
	施設利用者数 96,236人 (H30)	93,459人	62,337人	90,000人	105,000人	施設利用者数 (R3) : 61,112人 ・R3目標達成率: 68% ・対前年比: 98%	D	5700人					

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
観光	35 清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町) 【実施主体】 ◎ 津野町	主要宿泊施設 年間宿泊数 10,950人 (H30)	10,822人	4,695人	13,342人	14,000人	1 受入体制の強化 ・観光推進組織の設置検討 ・四国カルスト広域連携による関係市町会議への参加 ・観光ガイドの育成、スキルアップ ・モニターツアー 2 観光商品の造成と磨き上げ ・津野町の四季や文化を生かす体験プログラムや食など観光商品の造成と磨き上げ 3 観光拠点整備と磨き上げ ・拠点施設整備 4 情報発信と誘客活動 ・PR強化	1 受入体制の強化 ・観光推進組織設置における方針検討(12～3月) ・四国カルスト広域連携関係5市町による会議の開催(11/25) ・観光ガイド「てっぺん四万十風の会」研修実施(2回) ・安全管理マニュアル作成研修の実施(10/20) ・iPadを活用した観光案内開始(星ふるヴィレッジTENGU、道の駅) 2 観光商品の造成と磨き上げ ・おんぼく手法を活用した津野町体験キャンペーン「つのつねね#2」開催(R3.8～9月、16プログラム) ・星ふるヴィレッジTENGURリニューアル記念「星を観る侍天文学者 片岡直次郎展」の開催(7/7～8/31吉村虎太郎生家、9/6～10/31片岡兄弟生家) ・津野町デジタルスタンプラリー「津野スタ」の実施(R3.6～R4.1) ・ツノトク定期周遊の実施 ・星ふるヴィレッジTENGUの宿泊者を対象に、夜のペンライトアートモニターツアーを実施(8月) ・せいらの里お茶煎り体験、茶缶作り体験プログラム造成 3 観光拠点整備と磨き上げ ・せいらの里リニューアル施設整備完了(5月完成) ・せいらの里前イベント広場の造園整備及び活用検討 ・遊山四万十 せいらの里リニューアルオープン(7/12落成神事・内覧、7/21オープン) 4 情報発信と誘客活動 ・広報の実施(テレビCM、ラジオ、SNS、HP、YouTube、ほっとごうち他) ・「津野ぶら」JHP、NSNでの情報発信	主要宿泊施設 年間宿泊数(R3)：10,762人 ・R3目標達成率：81% ・対前年比：229% ・対R元年比：99% ※R2は天狗荘、せいらの里改修のため休館	(成果) ・「つのつねね#2」の開催 ・四万十川源流域の拠点となる「遊山四万十せいらの里」及び、せいらの里前に牧野植物園監修でイベント広場を整備 (課題) ・奥四万十エリアへの周遊促進 ・せいらの里前のイベント広場の活用 (今後の方向性) ・体験メニューや観光ガイドを活用した町内周遊プランの造成と情報発信 ・イベント広場を活用したマルシェ等のイベントの実施	13,568人	1 受入体制の強化 ・観光推進組織の設置準備 ・四国カルスト広域連携による関係市町会議への参加 ・観光ガイドの育成、スキルアップ ・モニターツアー 2 観光商品の造成と磨き上げ ・津野町の四季や文化を生かす体験プログラムや食など観光商品の造成と磨き上げ ・つのつねね#3の開催 3 観光拠点整備と磨き上げ ・「奥四万十高知」運営開始 4 情報発信と誘客活動 ・誘客のための情報発信 ・イベント開催	
													主要観光施設 入込者数 261,094人 (H30)

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4	R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成率(※)			
観光	36 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト (津野町) 【実施主体】 ◎・津野町 ・(一財)天狗荘	天狗荘の年間宿泊数 7,646人 (H30)	7,910人	2,750人	9,900人	11,000人	1 観光拠点整備 ・天狗荘(施設整備) ・天狗荘周辺エリア 2 受入体制の強化 ・人材確保・人材育成 ・四国カルストエリア全体での受入強化 3 観光商品の造成と磨き上げ ・地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ 4 情報発信と誘客活動 ・PR強化	1 観光拠点整備 ・「星ふるヴィレッジTENGU」落成式典開催(6/25) ・「星ふるヴィレッジTENGU」ランドオープン(7/7) ・カルスト学習館リニューアル工事 (県自然共生課 R3.6月～R4.3月) 2 受入態勢の強化 ・GW中の四国カルストエリアの渋滞対策について愛媛県久万高原町と情報共有 ・四国カルストエリア関係5市町(久万高原町、西予市、内子町、梶原町、津野町)による広域連携会議の開催(11/25) ・人材確保、人材育成 地域活性化起業者((株)五藤光学研究所)の受入地域活性化起業者によるプラネタリウム運営アドバイス ・星ふるヴィレッジTENGUスタッフのおもてなし研修(9/22、10/22～23) 3 観光商品の造成と磨き上げ ・地域活性化起業者によるプラネタリウム映像撮影の講習	天狗荘の年間宿泊数 (R3) : 7,668人 ・R3目標達成率 : 77% ・対前年比 : 279% ・対R元年比 : 97% ※改修工事に伴う天狗荘休館(R2.10月～R3.7.6)のため	C (成果) ・星ふるヴィレッジTENGUリニューアルと誘客のための効果的なプロモーションなどによる四国カルストエリアの入込者数の増加 ・地域活性化起業者による星のソムリエ養成講座の開催と、星のソムリエ認定(9名) (課題) ・四国カルストエリア全体の広域連携事業の検討 ・星ふるヴィレッジTENGUの人材不足 ・ソフト面強化によるサービスの充実 (今後の方向性) ・周辺自治体(久万高原町、西予市、内子町、梶原町)との連携事業の協議 ・星ふるヴィレッジTENGUの人材確保とサービスの向上	10,000人	1 観光拠点整備 ・天狗荘周辺エリア ・カルストテラス(カルスト学習館)のリニューアルオープン 2 受入体制の強化 ・人材確保・人材育成 ・四国カルストエリア全体での受入強化 ・地域活性化起業者の受入継続 3 観光商品の造成と磨き上げ ・地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ ・四国カルストエリアの動植物観察会の実施 4 情報発信と誘客活動 ・地域活性化起業者による星の学習やソムリエ講座の実施	
			72,022人	42,656人	98,000人	110,000人	4 情報発信と誘客活動 ・天狗星空コミュニティ(天狗星空会)の参加募集(5月) ・地域活性化起業者によるプラネタリウムでの星の学習(R3.7月 : 小学生、R3.11月 : 中学生) ・地域活性化起業者による親子星空観察会の開催(11/25、11/26、11/29) ・星のソムリエ養成講座の実施(11/7～9)	四国カルストの入込者数 (R3) : 109,463人 ・R3目標達成率 : 112% ・対前年比 : 257% ・対R元年比 : 152%			S ・津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの磨き上げ ・町内への波及、周遊促進のための受入体制の整備(観光組織、観光ガイド等の確保・育成)	104,000人	

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)			
観光	37 わざわいごう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外	ホビー館年間入場客数 2.7万人 (H30)	3.4万人	2.1万人	5万人	5万人	1 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備 ・ホビー館改修協議 ・周辺施設(谷小屋)との連携 2 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実 ・企画展の開催(エヴァンゲリオン・ウルトラマン) ・町内小・中学校での体験教室開催 ・SNSを活用したPR 3 関連機関との連携した取り組み ・イベント開催、町周遊企画との連携 ・海洋堂Space Factoryなんことの連携	1 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備 ・エントランス、物販・休憩スペース等改修(R3.10月～R4.3月改修) 2 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実 ・海洋堂ウルトラマンフィギュア展の開催(R3.7/22～R4.5/30) 3 関係機関との連携した取り組み ・ラッピング列車の運行 海洋堂ホビー特レイン『ウルトラ特レイン号』(R3.7/22～R4.5) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による経済波及効果算出と今後の目標策定支援(R3.12～)	ホビー館年間入場客数(R3):22,225名 ・R3目標達成率:44% ・対前年比:106%	D	(成果) ・付帯施設の増床、物販コーナーの拡充 ・周遊企画(ウルトラマンAR・ポストカードラリー)の開催 ・経済波及効果分析スキルの習得 (課題) ・打井川地区との連携 ・物販コーナーの商品充実 (今後の方向性) ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり(滞在時間の延長) ⇒休憩スペースにおける飲食物提供の検討、地域との連携体制の構築	5万人	1 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備 ・改修に伴うPR活動及び効果検証 ・直販コーナーの商品募集 2 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実 ・企画展の開催(アリス) ・町内小・中学校と連携した体験教室の開催 ・SNSを活用したPR ・イベントの開催 3 関連機関との連携した取り組み ・イベント開催、町周遊企画との連携 ・Space Factoryなんことの連携
観光	40 ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点整備事業 (四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十町 ・道の駅四万十とおわ	道の駅「四万十とおわ」入込客数 8.5万人 (H30)	9.3万人	8.0万人	12万人	12万人	1 道の駅「四万十とおわ」の運営強化 ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催 ・周辺施設との体験プログラムの開発 ・地域内連携によるイベント開催 ・おかみさん市との連携によるバイキングの開催(月1回) ・地域産品を活かしたお土産商品の開発	1 道の駅「四万十とおわ」の運営強化 ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催(月1回) ・十和地域観光推進協議会と連携した体験プログラムの検討:4回(4/26、6/4、9/28、11/9) ・お土産商品等の開発:サブ(8月)、カレーパン(3月)	道の駅「四万十とおわ」入込客数(R3):91,860人 ・R3目標達成率:77% ・対前年比:115%	C	(成果) ・入込客数が新型コロナウイルス感染拡大前の水準に回復 ・新商品の開発 2商品 ・道の駅スタンプラリーの実施(208名利用) (課題) ・地域との連携強化による集客の増 ・運営体制の強化に向けた人材育成 (今後の方向性) ・地域の事業者との連携強化による入込客数の増加と周辺施設への周遊 ・新型コロナの感染拡大に注視したおかみさん市のバイキング再開 ・状況に応じたアドバイザーの活用	12万人	1 道の駅「四万十とおわ」の運営強化 ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催 ・周辺施設との体験プログラムの開発 ・地域内連携によるイベント開催 ・おかみさん市との連携によるバイキングの開催(週1回) ・地域産品を活かしたお土産商品の開発 ・アドバイザー活用の検討
		ジップライン利用者数		1万920人	1万人	1.2万人	1 四万十川ジップラインの運営 ・繁忙期に向けたスタッフの確保 ・人材育成、研修の実施 ・周辺施設との連携イベントの開催 ・ジップライン定例会の開催	1 四万十川ジップラインの運営 ・ジップライン定例会:5回(5/18、6/25、10/15、11/20、12/20) ・スタッフの確保(11名) ・公式HP開設(5月) ・Instagramフォトコンテストの開催(4月～9月) ・はあと絵馬販売、しまんとびらの運用開始(11月～) ・冬期割引の実施(1月～2月)	ジップライン利用者数(R3):8,269人 ・R3目標達成率:83% ・対前年比:76%	C	(成果) ・ジップラインを目的とした修学旅行等の団体誘客 ・各種SNSを活かしたPR、フォトスポットの設置 (課題) ・天候に大きく左右されるため、川船の運航割合が低く、満足度が低下している。 ・繁忙期における対応の強化	1.1万人	1 四万十川ジップラインの運営 ・人員確保 ・周辺施設との連携イベントの開催 ・ジップライン定例会の開催 ・スタートデッキへの輸送方法の改善 ・デジタルサイネージの検討および導入
	ジップライン売上高		2,499万円	1,782万円	2,200万円			ジップライン売上高(R3):1,887万円 ・R3目標達成率:106% ・対前年比:76%	A	(今後の方向性) ・川船の代替輸送方法の検討 ・デジタルサイネージを活用した講習時間の削減による最大対応人数の増加(現状:1日150人程度)	2,000万円		

(3) 令和3年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 28 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト ※ステップアップ事業 令和3年7月2日交付決定	販促ツールの製作、レーザー加工機による新商品開発	2,077千円 (1,038千円)
■No. 7 四万十町畑作振興プロジェクト ※ステップアップ事業 令和4年2月4日交付決定	四万十町産有機生姜を使用した高付加価値商品の加工・販売に係る加工場整備に向けた事業計画策定支援	994千円 (452千円)

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、19のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況	
高幡	農業	No.13 四万十世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、加工品の販売促進や輸出の検討を行い、次世代団地の経営強化を図る。	これまでの取り組み（H28～R3）	次世代施設園芸団地での生果販売向けのトマトの生産拡大に向けた適正な栽培管理を実施した。また、トマトカレーやトマトピューレの開発、販売を行った。また、OEM先が製造を中止したことやコストや生産性の面から加工品を製造することを断念した。トマトの生産拡大に向けた病虫害対策の確立と適正な栽培管理に特化した取組を実施した。
		関連する地域AP		No.9 四万十世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	R4年度の計画
		No.14 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。	これまでの取り組み（H28～R3）	既存畜舎の補改修等生産体制の構築に取り組み、平野畜産が四国初の養豚農場 HACCP認証を取得した。四万十ポークのブランド化に向けて、地域団体商標登録を目指すとともに、ロゴデザインを募集しブランドマークとして商品へのシールの貼付を開始した。道の駅あぐり窪川では、増産のための豚まん加工場が新設された。生産拡大に向けて、四国デュロックファーム（R3着工）と渡辺畜産（R4着工予定）について、畜舎整備に関する住民説明会を行うとともに、増頭計画のシミュレーションを作成中。生産効率の向上のための衛生対策の徹底を図った。
		関連する地域AP		No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト No.25 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備	R4年度の計画
		No.15 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新改植を進めるとともに、低樹高栽培の普及や労働力補完の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、2次加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	これまでの取り組み（H28～R3）	生産量の増大に向け、巡回指導等により新改植の推進や低樹高剪定技術の普及に取り組んだ。また、十和道の駅の「おちゃくりカフェ」での新商品の開発・販売支援を行うとともに、ペースト工場の建設や高品質ペースト機器の導入を支援した。また、栗を利用した加工品を製造する設備の増強を図る「しまんと地栗工場」がR3.5月に竣工した。
		関連する地域AP		No.6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	R4年度の計画
		No.16 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	JA土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミョウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指す。	これまでの取り組み（H28～R3）	ミョウガの生産拡大のためのヤシガラ培地活用施設（ストックヤード）が完成し稼働開始。ミョウガ料理メニューの考案や、地域内外の事業者と連携した消費宣伝活用を行い、また収量、品質の向上に向けた栽培講習会、試験圃の設置を行った。
		関連する地域AP		No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	R4年度の計画